

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月9日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 2671500110 |
| 法人名 | 社会福祉法人 山彦会 |
| 事業所名 | グループホーム わたしの親元 |
| 所在地 | 〒622-0303 京都府船井郡京丹波町三ノ宮小谷30 (電話) 0771-88-0156 |

| | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 社団法人京都ボランティア協会 | | |
| 所在地 | 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年3月12日 | 評価確定日 | 平成21年4月26日 |

【情報提供票より】(平成21年2月15日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-----------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成 14 年 2 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 11 人 | 常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 | 7.5 人 |

(2)建物概要

| | |
|------|--------------|
| 建物構造 | 木造 |
| | 1 階建ての 1 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|-----|---|
| 家賃(平均月額) | 1万円~2万円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有() | ○無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または 1日あたり 1380円 | | | |

(4)利用者の概要(2 月 15 日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|---------|---------|----|-----|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 0 名 | 女性 | 9 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 85 歳 | 最低 76 歳 | 最高 94 歳 | | |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|------------------------|
| 協力医療機関名 | 丹波笠次病院 福知山紅葉丘病院 西田歯科医院 |
|---------|------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

約20年前から高齢者介護事業を運営している法人が広い敷地内に新築したグループホームであり、京丹波町では第1号である。京丹波町の北部、綾部市に近い瑞穂の山の懐にあり、豊かな自然に恵まれている。ホームは和風住宅は各室に広いサンルームを備え、雪の多い冬季にも洗濯物を干したり、日光浴ができるようにしている。地域住民とは協力的な関係にあり、利用者は買い物に行ったときに旧知の人に会っての会話が楽しみである。家族との関係もよく、介護計画に家族支援の項目を盛り込んだり、毎月ホームから手書きの手紙を出したり、利用者が年賀状と暑中見舞いを家族に書くことを支援したりしている。7周年ホームパーティでは利用者が書いた色紙とつくった箸置きを家族にプレゼントし、非常に喜ばれている。食事は地元産の食材や利用者がつくった野菜などを使い、手作りの地元らしい献立になっている。管理者と主任は認知症への理解が深く、利用者本位のケアに取り組んでいる。ある日の昼下がり、庭の草引きをしている人、洗濯物を畳んでいる人、新聞を読んでいる人、塗り絵を塗っている人等、それぞれがしたいことをしており、利用者の自分らしい生活が実現している。

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価で指摘された点で、グループホームの理念を決めたこと、運営推進会議を立ち上げたこと、食事摂取量と水分摂取量の記録を残すこと、開設から7年が経過しているのにさらに個別ケアを目指していることなどが改善されている。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 今回の評価にあたって、自己評価は管理者、主任、3人の常勤職員が話し合っめてまとめている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 要綱を作成し、委員には委嘱状を出している。利用者、家族、民生児童委員会会長、グループホームの知見者として郵便局長を退職された区長、京丹波町介護保険課係長等をメンバーとして隔月に開催され、議事録が残されている。利用者の様子を写真で見せている。地域の花火大会がなくなり寂しいとの意見から併設特養の苑で花火大会を開催するなど、地域の情報や提案などが出され、活発な意見交換が行われている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族会が結成されており、毎年総会を行って事業報告等をしている。今回はグループホームの7周年パーティを行っている。いままで表立って意見や苦情はなかったが、日常的に話ができている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 保育園、小学校、中学校、地区の運動会に参加している。小学生の見学研修を受け入れている。地区の秋祭りのみこしはホームの敷地内まで入ってくる。併設特養が行った夏祭りには地域の人が約600人参加された。花火大会も子どもたちが大勢きて利用者と一緒に花火を楽しんでいる。シルバー人材センターの人が草花の手入れにきてくれている。地域の人から野菜をいただく。広報誌は家族の他行政、保健所、郵便局、小学校や保育所に配布すると共に瑞穂区内は回覧している。 |

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人の理念は「地域に密着した医療と心温かい看護・介護をめざしています」であり、パンフレットに明記し、広報誌『やまびこ』にも毎号掲載している。これを踏まえてグループホームの理念は「いつまでも自分らしく」を掲げ、利用者の字で書いたものをホーム内に掲示している。この理念は今年度になって職員みんなで話し合っで決めたものである。家族には家族会で7周年ホームパーティをしたときに説明している。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員は法人の理念については周知している。グループホームの理念については、グループホームというもののあり方、利用者本位とは何かなどについて常に話し合っている。「自分らしく」に関して、さらに深める必要を感じている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 保育園や小・中学校、地区の運動会に参加している。小学生の見学研修を受け入れている。地区の秋祭りのみこしはホームの敷地内まで入ってくる。併設特養の夏祭りに地域の人が約600人参加された。花火大会にも子どもたちが大勢きて利用者と一緒に楽しんでいる。シルバー人材センターの人が草花の手入れにきてくれる。地域の人から野菜をいただく。広報誌は家族の他行政、保健所、郵便局、小学校や保育所に配布すると共に瑞穂区内は回覧している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 今回の評価にあたっての自己評価は管理者、主任、3人の常勤職員が話し合っでまとめている。前回の評価で指摘された点で、グループホームの理念を決めたこと、運営推進会議を立ち上げたこと、食事摂取量と水分摂取量の記録を残すこと、開設以来7年が経過しているのでさらに個別ケアを目指していることなどが改善されている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 要綱を作成し、委員には委嘱状を出している。利用者、家族、民生児童委員会会長、グループホームの知見者として郵便局長を退職した区長、京丹波町介護保険課係長等をメンバーとして隔月に開催され、議事録が残されている。利用者の様子を写真で見せている。地域の花火大会がなくなり寂しいとの意見があり、併設特養の苑で花火大会を開催するなど、地域の情報や提案などが出され、活発な意見交換が行われている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 2005年10月に、丹波町、和知町、瑞穂町の3町が合併して京丹波町になり、それまで比較的つながりがあった町とは少し疎遠になった感がある。何かのときには連絡をとっている。京丹波町が認知症の人をかかえる家族の会で研修会を主催しており、その講師となっている。 | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の面会は多く、毎週来る人もあり、少ない人でも3カ月に1回は来られており、その際に情報交換している。法人の広報誌『やまびこ』が年4回発行され、そのなかにグループホームの情報が写真を中心に掲載されており、家族に喜ばれている。グループホームからは家族にあてて、主任が手書きのお便りを書き、毎月送付されている。ていねいに一人ひとりの様子が書かれている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会が結成されており、毎年総会を行って事業報告等を行っている。今回はグループホームの7周年パーティーを行っている。いままで表立って意見や苦情はなかったが、日常的に話ができている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 法人としてはグループホームの利用者と職員との馴染みの関係を大切に、安易な異動は行わない方針であるが、明文化はない。異動の場合は引継ぎ等に配慮して重複勤務にしている。利用者にはあいさつをしているが、ダメージはいままでなかった。職員の離職を防ぐ意味では親睦会をしたりしている。職員は口コミで応募してくる人が多いので、人のつながりがあり、安易な離職はあまりない。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修は新任職員研修、役職員研修等が段階的に計画されている。研修後はレポートが残され、全体会議で伝達研修している。褥瘡、救命講習、感染症等が受講されている。職員一人ひとりの目標はそれぞれが書いて、全体会議で発表している。部門別の目標は毎月定め、達成状況の確認を行っている。理事長は「自分の職場を好きになれ」「毎日の目標を持って」が口癖で、職員を励ましている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ちょっとしたきっかけで福知山市の「グループホームすこやかの家」の管理者と知り合い、当日の勤務者を除いて6人の職員が見学に行き、刺激を受けてきている。今後も他のグループホームの見学などを続けたいと考えている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|--|
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用の前には必ず見学に来てもらっている。利用が始まって慣れるまでは常によりそい、家族に面会に来てもらったり、一緒に泊まってもらったりしている。利用者がデイサービスを利用していた人ならデイサービスへ遊びにいったり、また自宅にも遊びに行ったりしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者を介護される側に置くのではなく、長い人生を生きてきた人として学ぶことが多いと考えている。職員は介護をさせてもらっているという認識で、利用者のできることを伸ばし、やる気を出してもらうようにしている。渋柿の皮をむいてつるし柿にすることは利用者にも教えてもらった。またとうがらしを煮る前に種を指で上手にとるのを見て感心した。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の情報は面接して収集している。生活歴や趣味・嗜好等は記録されていない。包括的自立支援プログラム方式でアセスメントしている。身体情報、行動情報はあがるが、社会的交流面、生活の継続等の情報は少ない。 | ○ | 利用者や家族は望む生活像を明確に表現できない場合が多いので、利用者の生活を支援していくために、利用者の生活歴、趣味・嗜好、利用までの生活状況などの情報を詳細に収集することが望まれる。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画はケアマネジャーが作成し、職員に確認している。利用者個々の生活歴等を反映した介護計画になっていない。どの利用者についても、家族支援の視点からの項目が盛り込まれているのは評価できる。 | ○ | 上記で収集した利用者個々の生活歴や趣味・嗜好を反映した介護計画にし、個別・具体的なものにすることが望まれる。さらに、生きがいのある生活になるようなプラス志向の項目を盛り込むことが望まれる。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 毎日の介護の記録はケース記録として書かれている。利用者の行動や様子が書かれているが、介護計画にそったものではない。モニタリングは3カ月ごとに行っている。カンファレンス会議は毎月のスタッフ会議のなかで行っており、意見はいろいろ出ている。 | ○ | ケース記録は一人ひとりの利用者について、介護計画の項目にそって、実施したかどうか、実施したときの利用者の言葉や表情、実施できなかった場合、ケアの拒否があった場合の原因の考察等を記録し、モニタリングの根拠とすることが望まれる。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---|----|---|--|------|--|
| 3. 多機能性と生かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 隣接して同法人の特養があり、利用者同士の交流、コンサートなどの行事への参加、診療所での受診、職員の研修等、共にできることがメリットとなっている。特養の利用者が外出するときに一緒に行くこともある。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医には家族に同行をお願いしている。ホームでの情報を伝え、診察の結果も聞いている。入院時等には介護サマリーを出している。歯科医や紅葉丘病院精神科への受診は同行している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ターミナルケアに関しての方針は明文化されていない。家族は契約の時に隣接の特養に申し込みをしている。最期までここにいたいという家族もいる。職員は最期までお世話をしたいという気持ちをもっている。医師や看護師の協力は得られる。 | ○ | ターミナルケアをするのか、しないのか。する場合も、しない場合も、方針の明文化が必要とされる。それをもとに利用者や家族の意向を確認し、同意書等を残しておくことが望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 居室もトイレも中から鍵がかけられるようになっており、かける人もいる。トイレ誘導等の声かけには十分注意している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床時間は自由なので、朝食は7時ころだが、遅い人もいる。就寝時間もそれぞれで、7時ころに寝る人や11時ころまでテレビを見ている人もいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 隣接の特養の管理栄養士が献立を立て、食材も準備してくれる。利用者と一緒に食材を取りに行き、野菜を切ったり、大根をおろしたり、いためたり、味付け、盛り付け、配膳など、利用者と一緒にやっている。食器洗いや拭くことも利用者はできる。毎週1回は利用者の希望を聞いて独自の献立にしている。庭に食卓を持ち出して桜の花を見ながらカレーを食べたり、地元の食堂に外食に行ったりしている。職員も共に食べながら会話が弾んでいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 浴室は家庭風呂より広く、窓の外には山の風景が見える。週に2回午後にお風呂をわかし、職員3人で全員の利用者の入浴を支援している。 | ○ | 利用者にとってお風呂は大きな楽しみであり、1人ずつがゆっくりと自分の好みの湯温で、好みの入り方ができるように、支援することが望まれる。希望すれば毎日でも、また夜間にも入ることができるように、マンツーマンの同性介助で支援することが望まれる。 |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食材を取りにいく、食事の準備、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、時には自分の下着の手洗い、花壇の世話、畑の草引き、落ち葉掃き、雑巾縫い、ゴミ捨て等、生活の中のさまざまなことを利用者が果たしている。塗り絵、貼り絵、トランプ、カルタ、新聞や本を読む、歌などの楽しみがある。クリスマスに利用者がウェディングドレスを着てファッションショーを行っている。利用者は家族に年賀状と暑中見舞いを毎年出している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 敷地を出たところにあるお地藏さんを拝みにったり、敷地内にゴミ捨てに行ったり、山で花を摘んだり、利用者は毎日のように出かけている。人形展鑑賞、八木町で花見、文化ホールでさざんか劇団鑑賞、九手神社で紅葉狩り、丹波自然運動公園で菊花展鑑賞、須知高校農場見学等はドライブで出かける。亀岡コスモス園と下山フルーツガーデンを見て、れいん房で食事をする日帰り旅行を楽しんでいる。元の家を見たいという利用者の希望に対応している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 敷地には柵はなく、表門や玄関ドアは施錠されていない。利用者の居室のサンルームや居間からも外へ出ることができる。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 火災について通報機とスプリンクラーが今後の予定となっているが、消火器、感知器、防火管理者、備蓄等が準備されており、消防計画が提出されている。夜間想定もふくめた避難訓練を実施している。京都府南丹広域振興局健康福祉部が京丹波町と特養山彦苑と提携している「高齢者安否まかせて防災支援プラン」に参加している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者の食事摂取量と水分摂取量の記録が残されている。献立は隣接の特養の管理栄養士が立てており、カロリー値と栄養バランスの記録がある。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関前にベンチと花を植えたプランターがある。玄関土間の下駄箱の上に生け花を飾り、観葉植物の鉢が置いてある。居間兼食堂は広く、天井は吹き抜けになっており、明るい。隅の畳コーナーには掘りコタツがある。居間は全面ガラス戸から日が差し込み、広々とした山の景色が広がっている。すぐ外にある桜の木は満開が楽しみである。アンティークな時計や大きな鏡が置かれ、白板に利用者が献立を書いている。食卓には手作りの一輪挿しに椿とすずらんの花が生けてある。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は畳の部屋と洋間がある。部屋の外は広いサンルームになっており、屋根はガラスなので、雨の日も雪の日も洗濯物や布団を干したり、日光浴ができる。ダンス、椅子、机、テレビ等を利用者は持ち込んでおり、壁にはホームで撮った写真を大きくして貼ってある。人形ケースにフランス人形、中国人形、市松人形、高砂、小さな人形などいっぱい飾っている人もいる。 | | |